

## 生涯学習・社会教育関係職員研修講座 センター研修【第5回】

10月11日(水)13:00～15:00 県総合社会教育センター 受講者21名(オンライン含む)

### 1 趣旨

生涯学習・社会教育関係職員及び関係団体職員等の資質向上とネットワーク形成を図ることを目的に、業務遂行に係る基礎的・実務的な研修、地域課題の把握と課題解決につながる実践的な知識・技能の習得のための研修を行う。

### 2 内容

【講義】「障害者の学びの機会充実に向け」

講師 ボランティアサークル「麦の会」

代表 若木 政 人 氏



### 3 講義要旨

- 障害者の方は、「地域社会で普通に生活し、生きていきたい」と願っています。私は、地域で生活する知的障害者の交流の場として、「はまなす青年教室」を発足しました。
- 「はまなす青年教室」は、公民館事業として、年間15回程度の教養講座を実施しています。対象は、知的な障害をもった青年とその家族です。ほとんどの方がリピーターなので、継続した活動ができています。
- 実際の運営では、サポーターの負担が大きいと感じています。また、活動を50年続けてきましたが、次世代の担い手が課題となっています。
- 知的障害者の方が地域社会で生活するためには、ボランティアの力が必要です。一人のボランティア力は小さくても、たくさん集まれば多彩な企画も可能になります。ボランティアを楽しむことで、続けていくことができるのです。

### 4 受講者の感想から

- ・若木氏が話される言葉から、人間本来のあり方や温かさを感じることができました。いろいろな立場や状況の人が、一緒に居て一緒に活動できる、当たり前の雰囲気のある社会にしていきたいです。
- ・「ボランティアは楽しくなくちゃ」というお話の通り、構えて接するのではなく、自然に接することができる人が増えれば、もっとたくさんの障害者が地域社会で活躍できると思いました。
- ・障害者の学びを必要とする人たちはどんどん増えていく中、社会的に大きなニーズはあると思うのですが、それをボランティアで支えていくというのは非常に厳しいと感じました。もっと、国や県全体で支えていくような仕組みができればよいと感じました。

本研修第5回目は、「障害者の生涯学習」というテーマについて、若木氏より、「はまなす青年教室」の実践事例からその意義や取り組み等について理解しやすい内容で紹介いただきました。講話終了後は、受講者の質問に懇切丁寧にお答えくださったことで、より一層深い学びとなりました。

